

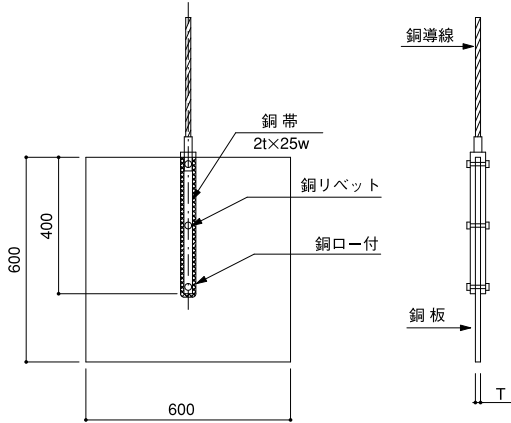
接地銅板

EARTH COPPER PLATE

- 材質：銅製
MADE OF COPPER

日建設計標準仕様

BRASS BRAZING TYPE



品番	T.W.(寸法)	リード線
781	1.5t×600×600	2.0×13 (40 ^φ) 3m付
782	〃	2.0×19 (60 ^φ) 3m付

接地極の要点 JIS A4201-1992

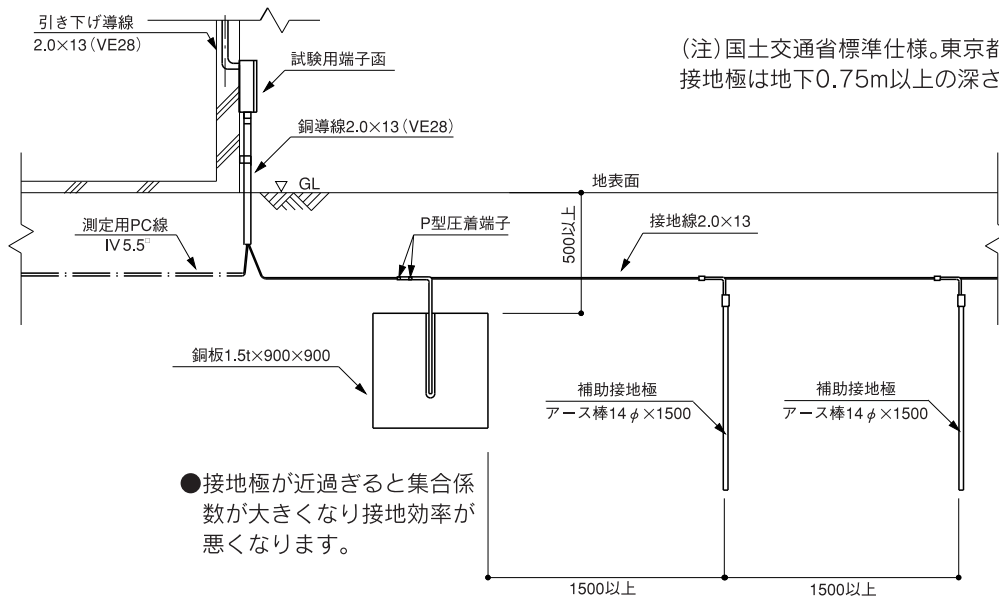
接地極とは、避雷導線と大地とを電氣的に接続するために地中に埋設した導体をいう。接地極は各引下導線に1個以上接続する。

厚さ1.4mm以上で片面の面積0.35m²(600×600)以上の銅板厚さ3.0mm以上で片面の面積0.35m²以上の溶融垂鉛めっき鉄板、又はこれと同等以上の接地効果のある棒状、管状、带状、板状又はうず巻状の金属体を使用する。接地極と引下導線、又接地極を並列に接続する場合、断面積30mm²以上の裸銅線を使用する。

接地極は各引下導線の下の方で接地極上端が地下0.5m以上の深さになるよう埋設すること。1条の引下導線に2個以上の接地極を並列に接続する場合その間隔は原則として2m以上(補助接地極の場合も同じ)とし地下0.5m以上の深さのところ断面積30mm²以上の裸銅線で連接接続する。

●(注意) 上記は日本工業規格によるものです。埋設の深さ等は、各施工主の仕様に準拠してください。

避雷設備接地施工要領図



JIS A4201-1992:3.1.4(3)

接地極は、地下0.5m以上の深さに埋設すること。

(注) 国土交通省標準仕様。東京都仕様

接地極は地下0.75m以上の深さに埋設すること。

- 接地極が近過ぎると集合係数が大きくなり接地効率が悪くなります。

- 抵抗値が得られ無い場合打ち込み深さ以上距離を取って打ち増す。

(注) 施工写真が役所検査が必要です。